

第2回 高松中心市街地プロムナード化検討会議

日時：令和5年7月12日（水）14時00分～

場所：サンポート高松 シンボルタワー展示場

次 第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 社会実験について
 - (2) 合意形成の進め方について
- 3 閉会

<配布資料>

資料1 高松中心市街地プロムナード化検討会議 設置要綱

資料2 第2回 高松中心市街地プロムナード化検討会議 説明資料

高松中心市街地プロムナード化検討会議 設置要綱

(目的及び設置)

第1条 高松中心市街地において、より一層のにぎわいを創出するため、歩行空間の課題を抽出し、都市空間の再編に向けた検討を行うことを目的として、高松中心市街地プロムナード化検討会議（以下「会議」という。）を置く。

(会議)

第2条 会議は、別表に掲げる委員で組織する。

- 2 会議に委員長及び副委員長を置き、委員長は、委員の互選によって定め、副委員長は、委員長が指名する。
- 3 委員長は、会務を総理する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長が不在又は事故があるときは、その職務を代理する。
- 5 会議は、委員の2分の1以上が出席しなければ開くことができない。
- 6 委員に支障があるときは、当該委員が委任する者が会議に出席し、議決に加わることができる。ただし、委員長、副委員長は他の者に委任できない。
- 7 会議は、委員長が招集し、議長となる。ただし、最初に開催される会議及び委員の任期満了後における最初の会議は事務局長が招集する。
- 8 委員長は、必要があると認めるときは、関係者に対し、資料の提出や出席を求めることができる。また、検討状況に応じて、会議に諮り、委員の改選を行うことができる。
- 9 委員長は、指定感染症の感染拡大防止或いはその他理由により、やむを得ないと認める場合は、書面会議又はインターネット環境等を利用した会議を開き、議決を得ることができる。

(会議の公開)

第3条 会議は、原則として公開するものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合であって、委員長が会議の全部又は一部を公開しない旨を決定したときは、この限りではない。

- 一 香川県情報公開条例（平成12年条例54号）第7条各号に定める情報に該当すると認められる事項について審議等を行う場合
- 二 公開することにより、公正かつ円滑な検討が著しく阻害され、会議の目的が達成できなくなると認められる場合
- 三 その他、委員長が必要と認める場合

2 前項の規定により会議を公開する場合において、議長は、会議の運営上必要があると認めるときは、傍聴人の数の制限その他必要な措置を講じることができる。

(事務局)

第4条 事務局は、委託業務受注者が行う。

- 2 事務局は、会議の運営に必要な事務を行う。

(その他)

第5条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、令和5年4月24日から施行する。
- 2 この要綱は、会議の設置目的を達成したときにその効力を失う。

別表 委員（17名）

（敬称略 令和5年7月12日現在）

区 分	職 名	氏名	備 考
学識経験者	日本大学工学部 教授	中村 英夫	
	香川大学経済学部 教授	西成 典久	
	日本政策投資銀行 四国支店長	柏原 亮	
交通事業者・ 地区内関係者	四国旅客鉄道（株）事業開発本部 副本部長	北條 裕介	
	（一社）香川県バス協会 専務理事	今西 照章	
	高松タクシー協会 会長	川崎 武文	
	香川県旅客船協会 会長	堀川 満弘	
	シンボルタワー開発（株） 専務取締役	栗原 盾	
関係行政 機関	国土交通省四国地方整備局 建政部長	宮武 一郎	
	国土交通省四国地方整備局 道路部長	清水 純	
	国土交通省四国運輸局 交通政策部長	久保 雅寛	
	香川県警察本部交通部長	中村 弘孝	
	高松市創造都市推進局長	中川 昌之	
	高松市都市整備局長	板東 和彦	
	香川県交流推進部長	多田 仁	
	香川県土木部長	竹内 正巳	
	香川県教育委員会 新県立体育館整備推進総室長	海津 洋	

第2回 高松中心市街地プロムナード化検討会議

説明資料

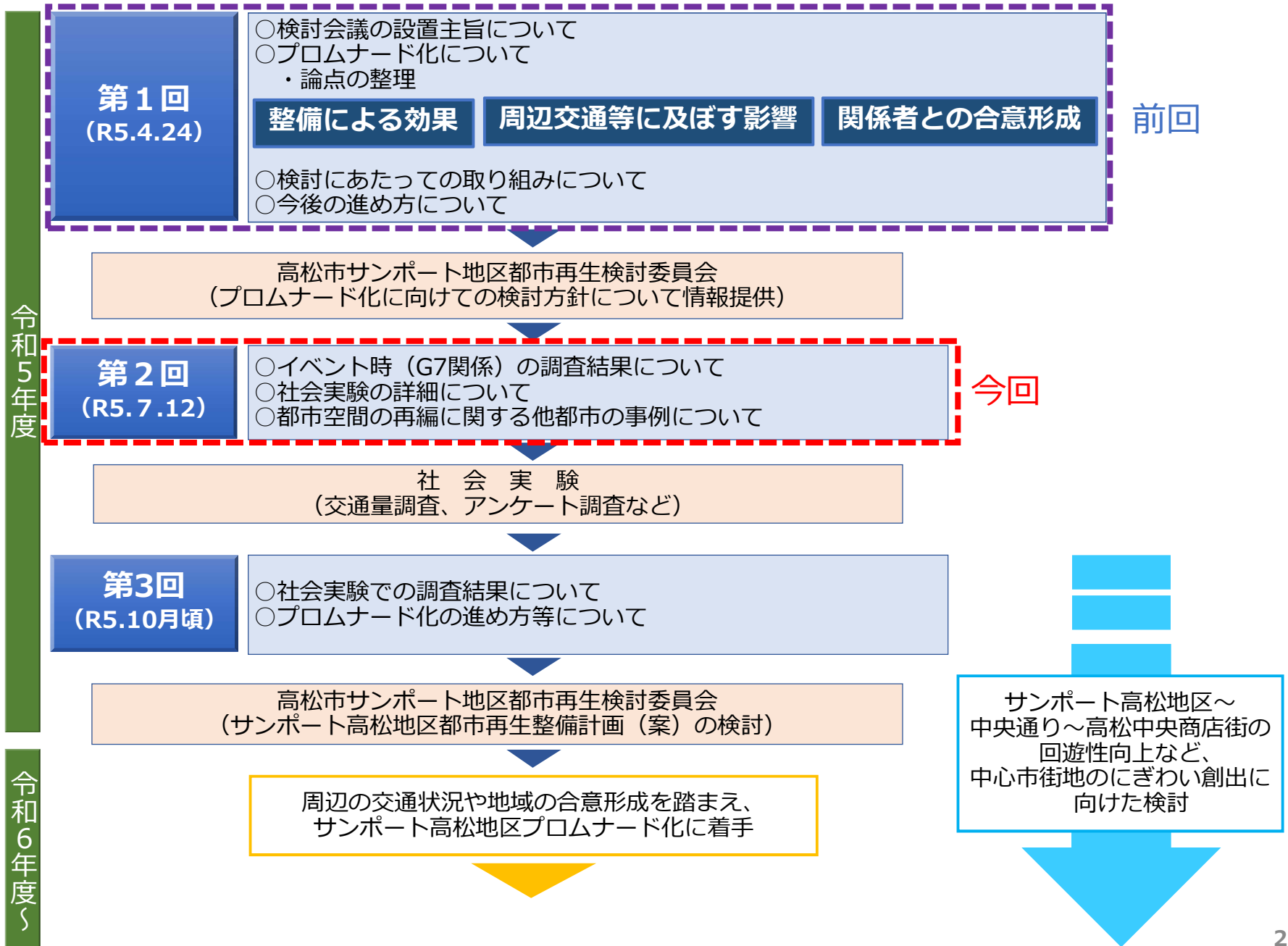
令和5年7月12日（水）

サンポート高松 高松シンボルタワー 展示場

第2回 高松中心市街地プロムナード化検討会議 説明資料

1	第1回検討会議のふりかえり	
	(1) 全体スケジュール p.2
	(2) 第1回の意見と今回の検討 p.3
2	全体ビジョン p.6
3	都市空間の再編に関する他都市の事例 p.9
4	G7関連イベント時の調査結果	
	(1) 調査の概要 p.10
	(2) アンケート調査結果 p.14
	(3) 交通調査結果 p.18
5	社会実験について【検討事項①】	
	(1) 考え方 p.20
	(2) 社会実験(案) p.23
6	合意形成の進め方について【検討事項②】 p.24

1 第1回検討会議のふりかえり (1) 全体スケジュール



1 第1回検討会議のふりかえり

(2) 第1回の意見と今回の検討

○第1回検討会議における意見と、今回の会議資料における検討項目を整理。

意見

今回の検討

論点：「全体」

【全体ビジョン】

- サンポートの再開発は、高松全体、もっと言うと香川全体、備讃瀬戸周辺に大きな影響を及ぼす可能性があるため、そのビジョンの作り方というのが重要になってくる。
- 今回はサンポート地区の議論に集中すると思うが、その先の高松中心市街地を含めてプロムナード化をどういった形で進めるのか、全体的なところも何か道筋が見えればそちらに向かっていきやすくなるのではないか。
- サンポートは陸海空の結節点として非常にポテンシャルのある場所だと理解している。ウォークブルなまちづくりというコンセプトであるが、来訪者の滞在時間を延ばすような、様々な仕組みづくり、コンテンツの方も大切になってくる。

【段階的・部分的な検討】

- サンポート地区のプロムナード化が社会実験の状況等を踏まえると、場合によっては、段階的あるいは部分的にやっていくとか、様々なやり方がある。第2回会議の中で、このサンポート地区についていくつか道筋があり得るといったことも共有できるとよい。

【参考事例】

- 一過性に終わらず、これが10年、20年と続いていくという観点も重要であり、第2回会議の他都市の事例紹介では、そういった観点でも紹介していただくと有意義な議論になる。

2 全体ビジョン

3 他都市の事例

4 G7関連イベント時の調査結果

5 社会実験

1 第1回検討会議のふりかえり

(2) 第1回の意見と今回の検討

意見

論点：「周辺交通等に及ぼす影響」

【自動車交通】

- サンポートは、土地利用や業務機能の高度化を念頭にした街区構成をしており、市道高松駅北線や浜ノ町錦町線などを都市計画決定し、現在に至っている。現在、約1万台が東西に横断しており、さらにアリーナ、外資系ホテル、徳島文理大学ができることによる新たな発生集中交通のようなものも出てくる。プロムナード化を検討していくには、これらの交通量をどうさばっていくのかということも含めて、対策を考えていく必要がある。
- 高速艇乗り場から琴電高松築港駅に行く方が横断歩道を通行し、フェリーから降りた車が時間帯によっては渋滞しているので、交差点に陸橋を設け、歩行者と車両を完全に分離し、道路は車両専用にするをお願いしたい。
- 最新の交通量を調査する予定はあるか。また、今はビデオ撮影により、車や歩行者の方向別の動きも分かるので、そのような交通量の調査に取り組んでいただきたい。

【公共交通】

- アリーナで大規模イベントがあった場合に、周辺の駐車場からのシャトルバスの運行も当然考えないといけないと思うが、路線バスの運行ルートや、アリーナ周辺での乗降スペースの確保もあわせて、検討課題としていただきたい。
- アリーナが完成してイベント等開催されると、人の動きと非常に輻輳すると思われる。公共交通にとっては、安全、安心が最優先になるので、事故が起こらないような安全対策が必要になってくる。

今回の検討

4 G7関連イベント時の調査結果

5 社会実験

第3回検討会議で検討

1 第1回検討会議のふりかえり

(2) 第1回の意見と今回の検討

意見

今回の検討

論点：「整備による効果」

- シンボルタワーと駅前広場が4車線道路で分離されている。オフィスなど高い目的で来られる方には大きな障害ではないのだろうが、商業のようにぶらぶらと歩きながら目的を見つけていく方にとっては障害になっているのではないか。
- 歩行者を上げて歩車分離するのも一つの解決策であるが、一方で歩行者目線では、ずっと平面で歩いた方が回遊性、周遊性を確保する上では大事なことかと思う。

4 G7関連イベント時の調査結果

5 社会実験

論点：「関係者との合意形成」

- タクシー事業者やトラックなど貨物関係事業者の方の意見も聞きつつ進めていただきたい。
- 地域住民を始め、事業者との合意が一番のハードルになってくると思うので、こういった情報については地元の方の誤解を招かないように、早めに情報提供や説明をして、慎重に手続きを進めていく必要がある。

6 合意形成の進め方

2 全体ビジョン

都市の将来像

○今月開催のG7都市大臣会合において、大学生やG7各国のオブザーバーによる学生サミットで取りまとめた、持続可能な都市の発展に向けた提言を行った。

G7香川・高松都市大臣会合関連イベント
Event related to the G7 Sustainable Urban Development Ministers' Meeting in Takamatsu, Kagawa.

学生サミット in 香川・高松

持続可能な都市を目指して

[Students' Summit in Takamatsu, Kagawa]
[Aiming for Sustainable Urban Development]

参加国: 日本, アメリカ, イギリス, ドイツ, 日本, イタリア, カナダ, EU

令和5年 6月3日(土)
13:30~15:55 (開場 12:30)

場所: かがわ国際会議場 (香川県高松市) | 入場: 無料 (定員150名)

コーディネーター: 西成 典久 教授 (香川大学経済学部)

申込期間: 5/30(火)

申込URL: <https://www.g7-students-summit@nexus-web.info>

問合せ先: G7香川・高松都市大臣会合関連イベント運営事務局 (香川県高松市)

TEL: 087-811-5233 FAX: 087-802-2291 (平日10:00~18:00)

主催: G7香川・高松都市大臣会合推進協議会 共催: 香川県、高松市 後援: 国土交通省



2 全体ビジョン

都市の将来像

学生サミット in 香川・高松 提言書

都市から社会の課題を解決し、誰もが明るく快適な世界のために。
次の取り組みを香川・高松が率先して行い、
世界に発信することで他者の模範となり、持続可能な都市の発展に貢献していきます。

I 多様性に満ちた、誰にとっても居心地のいい都市にします

- ・年齢、性別、国籍に関係なく、皆が自分らしくいられるまちをつくります
- ・人々のつながりを大切にすることで、互いに支え合うコミュニティをつくります
- ・あらゆるサービスにアクセスできるデジタル環境をつくります

II にぎわいのあるまちなかをつくり、活力のある都市にします

- ・ウォーカブルなまちなかをつくり、健康な暮らしと子育てしやすいまちを実現します
- ・まちなかへ平等にアクセスできる公共交通を積極的に利用します
- ・にぎわいを楽しみ、地域経済を活性化させます

III 環境に配慮した、住み続けられる都市にします

- ・公共交通を最大限に活かしたまちづくりによって、環境負荷を軽減します
- ・デジタル技術やAIを用いてムダをなくし、循環型社会をつくります
- ・土地の成り立ちを知り、リスクに対応するしなやかな暮らしを実現します

IV 1人1人が誇りを持ち、次世代に愛される都市を実現します

- ・歴史と文化を活かした魅力的なまちをつくります
- ・地域から学び、地域を愛する仲間を増やします
- ・私たちは、世代と国籍を越えた仲間とともに『持続可能な都市の発展に向けた協働』を実現します

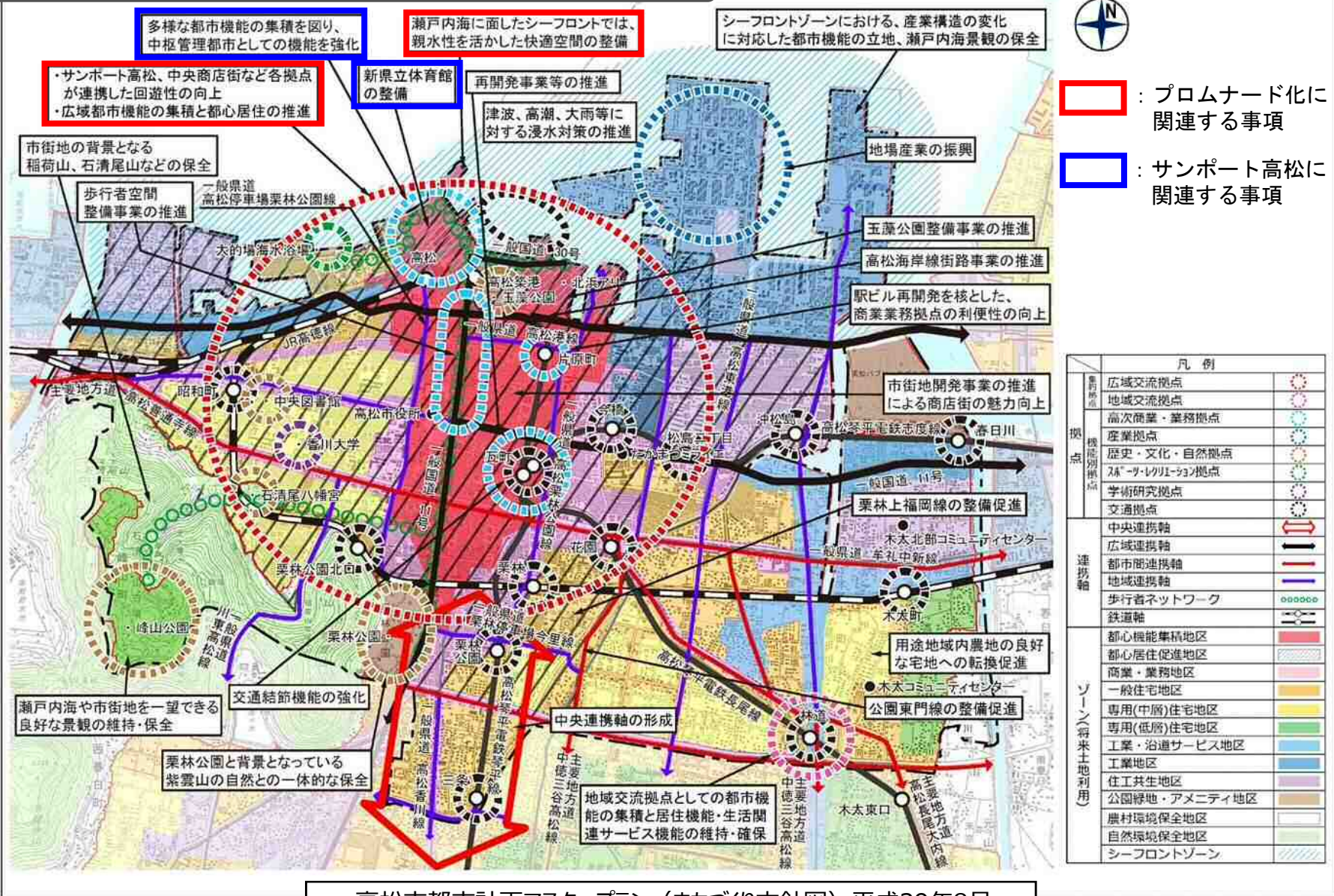
G7香川・高松都市大臣会合にお集まりいただく方々にも、私たちの思いを受け止めて頂き、
持続可能な都市の発展に向け、共に尽力していただくことを提言いたします。

2023年6月3日

香川・高松から世界へ
学生サミットin香川・高松参加者一同

2 全体ビジョン

都市におけるサンポート高松の位置づけ



高松市都市計画マスタープラン（まちづくり方針図）平成29年8月

3 都市空間の再編に関する他都市の事例

○多くの都市で道路空間の再編によるにぎわいの創出に取り組んでいる。

整備の種別	整備内容	効果
(1)車道の廃止 ・北3条広場（北海道札幌市） ・松山市駅前広場（愛媛県松山市） ・花畑広場（熊本県熊本市） 他	・車道を廃止し、広場や歩行空間として整備	・歩行者交通量が増加 ・憩いのスペース、イベント実施に必要な機能を確保し、にぎわいの場を創出
(2)車線減少 ・定禅寺通（宮城県仙台市） ・御堂筋（大阪府大阪市） ・葺合南54号線（兵庫県神戸市） ・ハレまち通り（岡山県岡山市） ・花園町通り（愛媛県松山市） ・松山ロープウェイ通り（愛媛県松山市） 他	・車線の減少（片側2車線→1車線化等）または側道等の廃止により歩行空間の整備や自転車専用通行帯を設置 ・拡張された歩行空間にベンチを設置するなど回遊性、快適性向上	・歩行者交通量が増加 ・イベント等の開催場所として活用 ・アンケート調査では満足度が高い ・地価が上昇
(3)トランジットモール化※ ・金澤表参道（石川県金沢市） ・大手前通り（兵庫県姫路市） 他	・一般車両の通行を制限し、路線バスや路面電車によるトランジットモールを整備 ・駅前広場や再開発ビルと一体となったトータルデザイン ・創出された空間を交流広場として整備	・歩行者交通量が増加 ・周辺において大きな渋滞は発生していない

※一般車両の乗り入れを制限し、歩行者とバスなどの公共交通機関のみが通行できる空間

4 G7関連イベント時の調査結果 (1) 調査の概要

G7関連イベントの概要

- 5月21日（日）にJR高松駅北側道路（市道高松駅北線）を車両通行止めとし、JR高松駅から多目的広場までを一体的なにぎわい空間としてSDGsをテーマとしたマルシェ等を開催。
- イベントにあわせて、来場者アンケートと交通調査を実施。

【イベントのチラシ】



※マルシェ開催時間10～16時、
通行止め7～18時

【イベント開催範囲】



4 G7 関連イベント時の調査結果 (1) 調査の概要

【イベントの状況】



4 G7 関連イベント時の調査結果 (1) 調査の概要

アンケート調査の概要

- 調査対象者： イベント来場者
- 調査期間： 令和5年5月21日（日）
10時～16時
- 回答数： 459票
(用紙：440票、web：19票)

【アンケート調査状況】



【アンケート調査票】

サンポート高松 来訪者アンケート

サンポート高松では、県立アリーナ等を中心としたにぎわいづくりのため、安全で快適な歩行空間（プロムナード）の検討を進めています。
本アンケートは、その検討の参考とするため、来訪者の皆様から御意見をお伺いするものです。調査の主旨等への御理解と御協力をお願いいたします。

実施主体：高松中心市街地プロムナード化検討会議（香川県等）



問1 あなた自身のことについてお聞かせください。

【年齢】 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代以上

【お住まい】 1. 高松市内 2. 香川県内（高松市以外） 3. その他（ ）

【同行者】 1. 家族 2. 友だち 3. なし 4. その他（ ）

問2 本日、どのような交通手段で来られましたか？（主なもの1つ）

1. 自家用車 2. バイク 3. 路線バス 4. 高速バス
5. タクシー 6. JR 7. 琴電 8. フェリー
9. 自転車 10. 徒歩 11. その他（ ）

問3 本日、周辺で訪れた、またはこれから訪れる場所を教えてください。（当てはまるもの全て）

1. JR高松駅 2. 高松シンボルタワー 3. ホテル（クレメント高松等）
4. 玉藻公園 5. せとるべ（赤灯台） 6. 港周辺
7. 北浜アリー周辺 8. 商店街 9. その他（ ）

問4 本日の道路を活用した、にぎわい創出イベントについて、どのように感じますか？

1. とても良い 2. 良い 3. 悪い 4. とても悪い

【選択した理由】

問5 サンポート高松において、現在の単利用を前提とした空間から、人が安全で快適に歩ける、にぎわい空間（マルシェのアンケートブースにイメージを展示）への転換を検討しています。あなたの考えに近いものを教えてください。

1. とても良い 2. 良い 3. 悪い 4. とても悪い

【選択した理由】

問6 その他、自由意見をお聞かせください。

質問は以上になります。ご協力ありがとうございました。

4 G7関連イベント時の調査結果 (1) 調査の概要

交通調査の概要

- 調査箇所：下図参照
- 調査期間：イベント時 令和5年5月21日(日) 7時~19時
通常時 令和5年5月28日(日) 7時~19時

【調査箇所】



【調査風景】



4 G7 関連イベント時の調査結果 (2) アンケート調査結果

回答者の属性

問 あなた自身のことについてお聞かせください。

○年齢は「40代」が24.5%と最も多く、次いで「50代」が23.6%となっている。

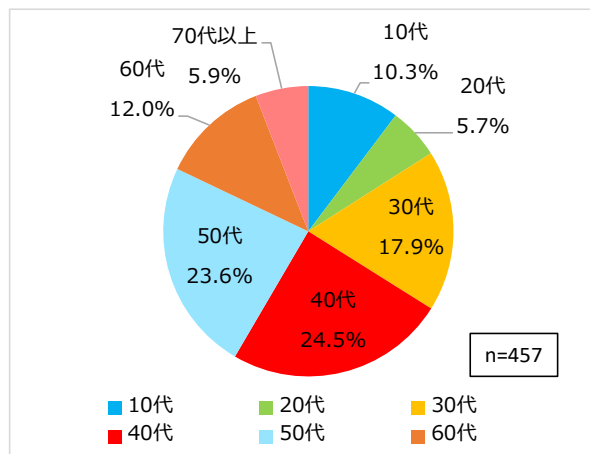
○住まいは「高松市内」が約7割となっている。

その他は、岡山県12人、広島県、愛媛県3人、神奈川県、徳島県2人。

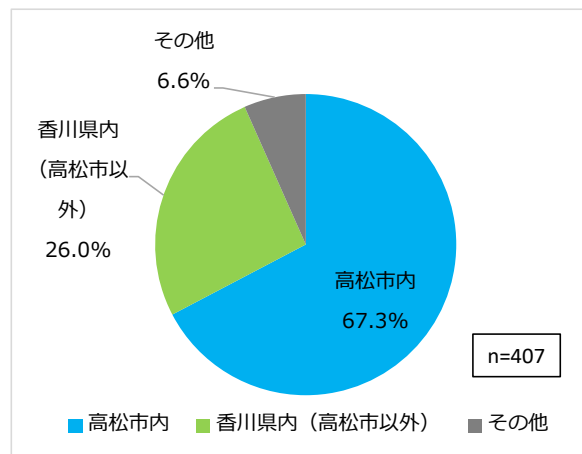
○同行者は「家族」が約6割となっている。

その他は、学生サミット、学校の先生方3人、会社・職場同僚2人。

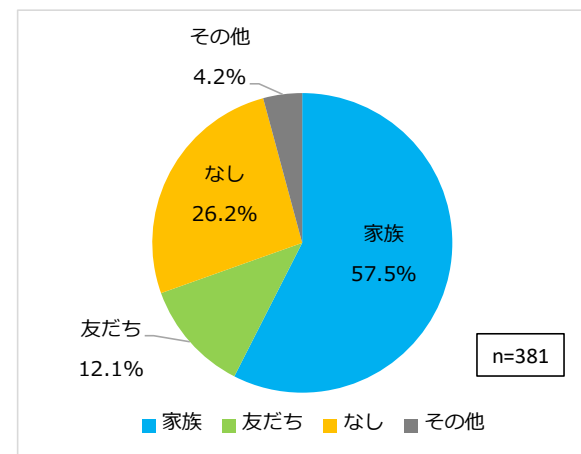
【年齢】



【住まい】



【同行者】

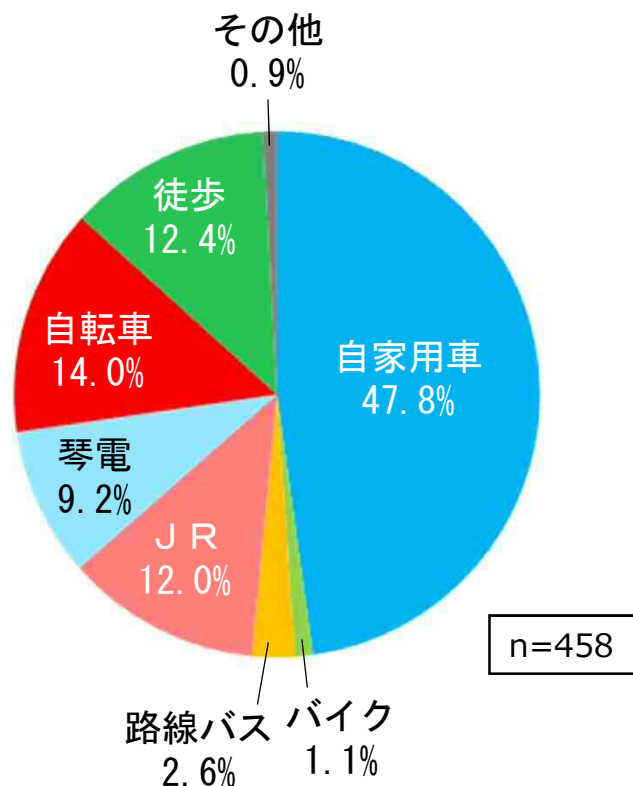


4 G7 関連イベント時の調査結果 (2) アンケート調査結果

交通手段

問 本日、どのような交通手段で来られたのかを教えてください。

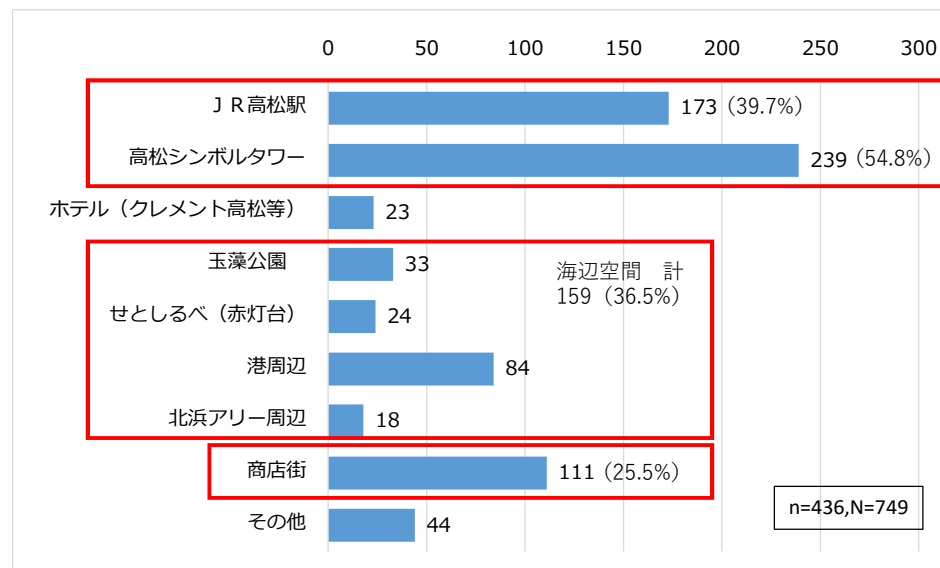
○「自家用車」が48%、「自転車」が14%、「徒歩」が12%、「JR」が12%となっており、サンポート高松へは自家用車の来訪者が最も多い。



周辺への回遊

問 本日、周辺で訪れた、またはこれから訪れる場所を教えてください。

○イベント前後で訪れる場所は、「高松シンボルタワー」が55%、JR高松駅が40%、「商店街」が26%となっており、イベントにより近隣の商業施設や商店街への波及効果が期待できる。
○海辺空間（港周辺等）との親和性も高い。

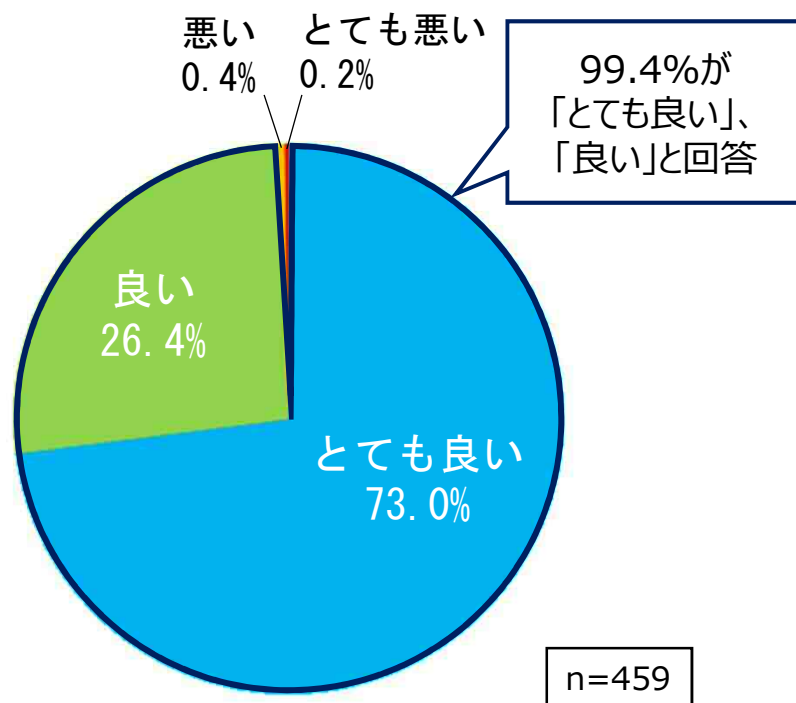


4 G7 関連イベント時の調査結果 (2) アンケート調査結果

道路を活用したイベントの評価

問 本日の道路を活用した、にぎわい創出イベントについて、どのように感じますか？

○回答者の99.4%がにぎわい創出イベントを「とても良い」又は「良い」と回答し、高い評価となっている。「悪い」又は「とても悪い」を回答したのは、1%未満（3人/459人）にとどまっている。



■「とても良い」と「良い」の理由（抜粋）

- ・歩行者が優先された空間は居心地良く、子どもを安心して遊ばせられた。
- ・車を気にせず安全に歩けるから。
- ・人が安全に通れるように整備されていたので安全でかつ楽しくイベントに参加することができました。
- ・イベント会場がストレスなく安全につながっていて大変いいです。
- ・イベントをきっかけとして高松市外からもサポートに来たいと思うようになりました。
- ・銀座、秋葉原…人の集まる魅力のある街は歩行者に優しい。街・都市のイメージアップにつながると思う。
- ・公共交通機関でアクセスしやすい場所でイベントが開催されると楽しみやすいから。
- ・普段とは異なった雰囲気を楽しめ、特別な気持ちになり、にぎわいが生まれていた。

■「悪い」と「とても悪い」の理由（抜粋）

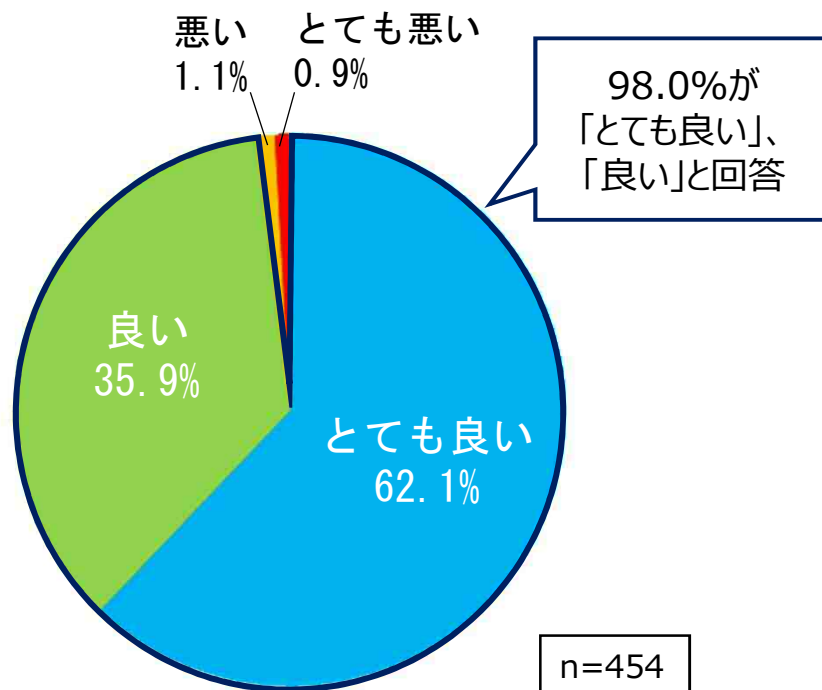
- ・見ていないが、車道を封鎖までする必要はないと思う。
- ・香川県は車社会であり、車道を規制してまでのイベント規模には、とても思えない。車両利用者からは不評をかう。
- ・車両通行の阻害になっている。

4 G7関連イベント時の調査結果 (2) アンケート調査結果

道路のにぎわい空間への転換に対する評価

問 サンポート高松において、現在の車利用を前提とした空間から、人が安全で快適に歩ける、にぎわい空間への転換を検討しています。あなたの考えに近いものを教えてください。

○回答者の98.0%がにぎわい空間への転換を「とても良い」又は「良い」と回答し、高い評価となっている。「悪い」又は「とても悪い」を回答したのは、2.0%（9人/454人）にとどまっている。



■「とても良い」と「良い」の理由（抜粋）

- ・人に優しい歩きやすい町にすることは町のイメージを良くするものでいい取組です。
- ・玄関口であるサンポートにおいて、にぎわい空間が可能となれば、商店街をはじめ、各観光地へのアクセスも活性化が見られると思われる。
- ・北部が海に面した魅力的な高松市だが、サンポート地区を中心とする回遊性を確保しなければ、いわば袋小路的な閉塞感にも繋がりがねないから。
- ・高松駅横の道路を歩道にするのは良いがアリーナ北側の道路はちょっと残ってほしい（両方ともいざとなったら車を通過できるようにすれば良いと思う）。

■「悪い」と「とても悪い」の理由（抜粋）

- ・我が家にとっては不便なため（自宅が公共交通機関から遠く、足の不自由な高齢者がいるので目的地のすぐ近くまで車で行く必要があるため）。
- ・都会みたいに公共交通機関が発展していないため、車利用は必要だと思うため（電車・バスの利便性を充実させてからの話になると思う）。
- ・通勤経路が無くなる（大きく迂回）のは本当に困ります。

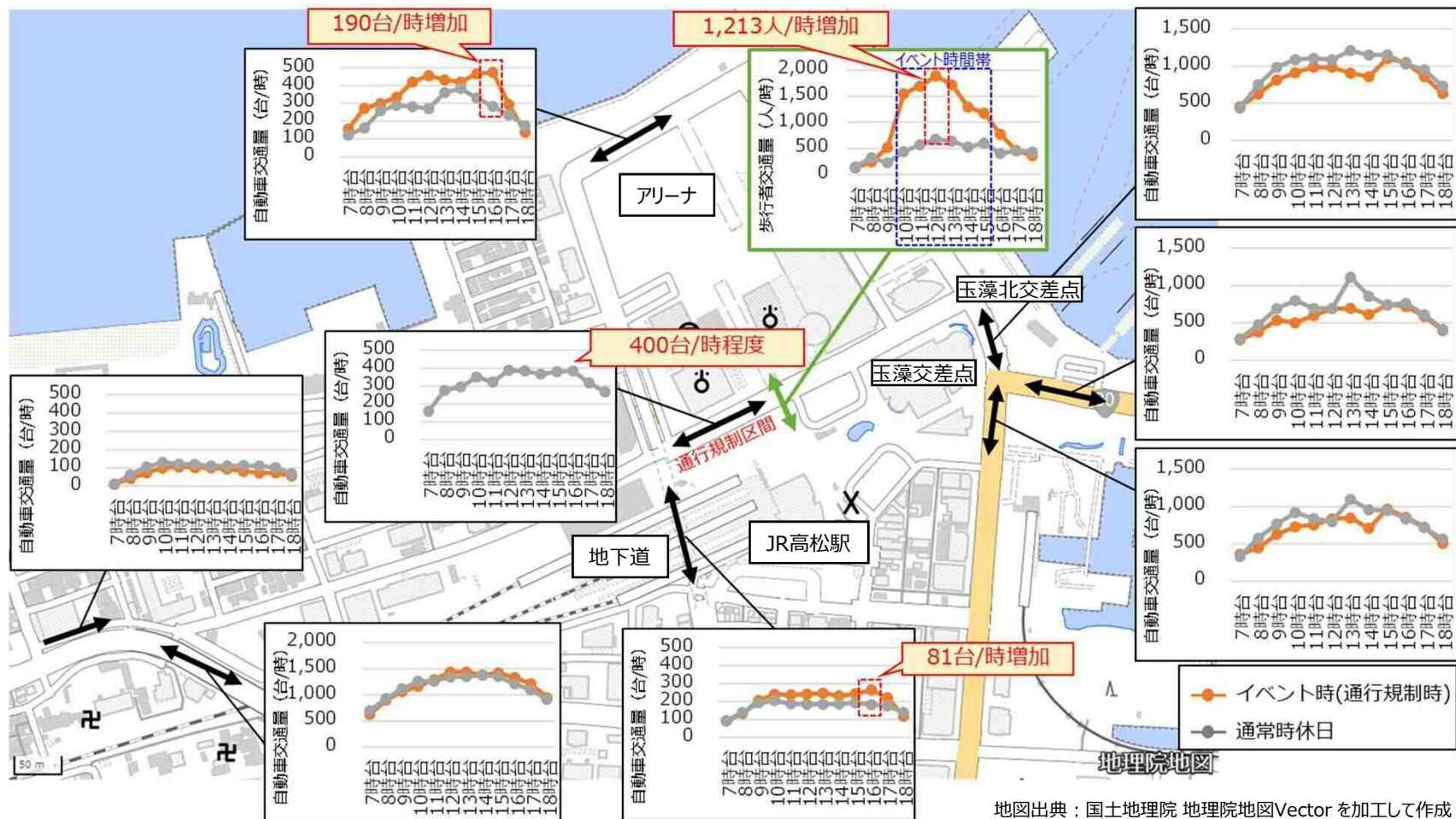
4 G7 関連イベント時の調査結果

(3) 交通調査結果

交通量調査の結果

イベント時：5/21(日)〔通行規制7時～18時,イベント10時～16時〕、通常時休日：5/28(日)

- 歩行者交通量は、イベント時間帯にJR高松駅北側で大きく増加している（最大で1,213人/時）。
- 自動車交通量は、通行規制によってアリーナ北側道路とサンポートから南への地下道で増加し（アリーナ北側では最大で190台/時、地下道では81台/時）、迂回が確認される。
- 周辺交通等に及ぼす影響については、今後の社会実験を踏まえ、検証を行っていく。



地図出典：国土地理院 地理院地図Vector を加工して作成

4 G7 関連イベント時の調査結果

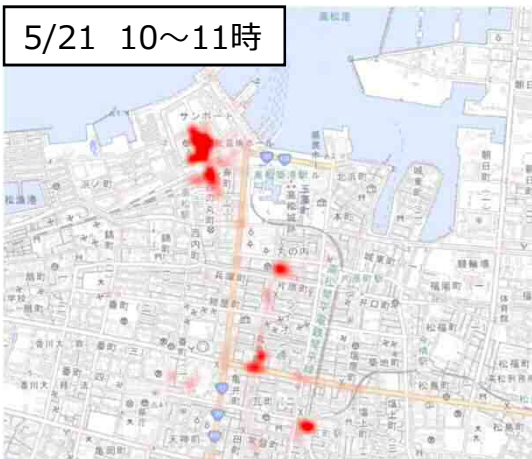
(3) 交通調査結果

携帯GPSデータの結果

- 携帯GPSデータによれば、イベントが開催されたサンポートや商店街で多くの滞在が確認できる。
- イベント来場者の港湾エリアへの回遊が確認できる。

【滞在状況】

5/21 10~11時



5/21 15~16時



※対象時間に観測されたGPSの密度を示しており、点が多い（密度が高い）ほど濃い赤に表示。

【回遊状況】

5/21 10~16時



※分析エリア（赤枠）内に10時～16時までに流入したIDを対象にその日の移動経路を表示。測位された点間を直線で結び経路として表示し、経路が多い箇所は色が濃くなるように表現。

5 社会実験について【検討事項①】

(1) 考え方

段階的プロムナード化

- 第1回検討会議で意見のあった段階的なプロムナード化のパターンを下記のとおり整理し、社会実験を実施する。
- 令和7年3月に開設を迎えるアリーナへの主動線を優先的にプロムナード化する。
- アリーナ北側道路については、周辺交通の状況変化を踏まえながら検討する。

■プロムナード化のパターン

パターン	アリーナ開設時（R7.3）の状況	
	高松駅北側道路	アリーナ北側道路
1	車両通行止め	車両通行止め
2	車両通行止め	トランジットモール化 (公共交通等は通行可)
3	車両通行止め	4車線 → 2車線 (歩行者が横断しやすいよう 道路の構造を工夫)
4	車両通行止め	現状維持（4車線）



大規模イベント時の経路別の歩行者交通量予測
(メインアリーナにおいて1万人規模のコンサートを開催した場合)

5 社会実験について【検討事項①】

(1) 考え方

参考資料（平成4年12月の都市計画決定）

- 高松駅北線（JR高松駅北側市道）は、29,000台の計画交通量に対し、4車線となっている。
- 周回道路（浜ノ町栗林公園線、アリーナ北側・西側市道）は、高松駅北線に連続する道路として、同規格としている。

都市計画道路構造決定根拠

路線名	幅員	延長	交通量	標準断面図	備考
3-5-131 浜ノ町栗林公園線	25 m	420 m	8,780 ≒ 8,800 台		第4種第1級 幹線道路（高松駅北線、臨港道路に連続する道路のため同規格道路とする。） 道路構造令（P-164）標準横断構成図参照。
	(27m) 28 m	420 m	9,730 ≒ 9,700 台		第4種第1級 幹線道路 JR予讃線、高德線と立体交差及び副道。 立体交差部分は交通量より2車線に対応可能。（アンダー部分 8,800 台） 幅員27m部分は区画整理区域との関係から現状幅員とする。
3-5-152 高松駅北線	12 m	510 m	1,700 台		第4種第3級 補助幹線道路 地区内の補助幹線道路であり、交通量も少なく駐車帯の需要は少ないため駐車帯なしの幅員とする。また、駐停車については民地内の駐車場で対応するものとする。
	25 m	350 m	28,990 ≒ 29,000 台		第4種第1級 幹線道路 道路構造令（P-164）標準横断構成図参照。

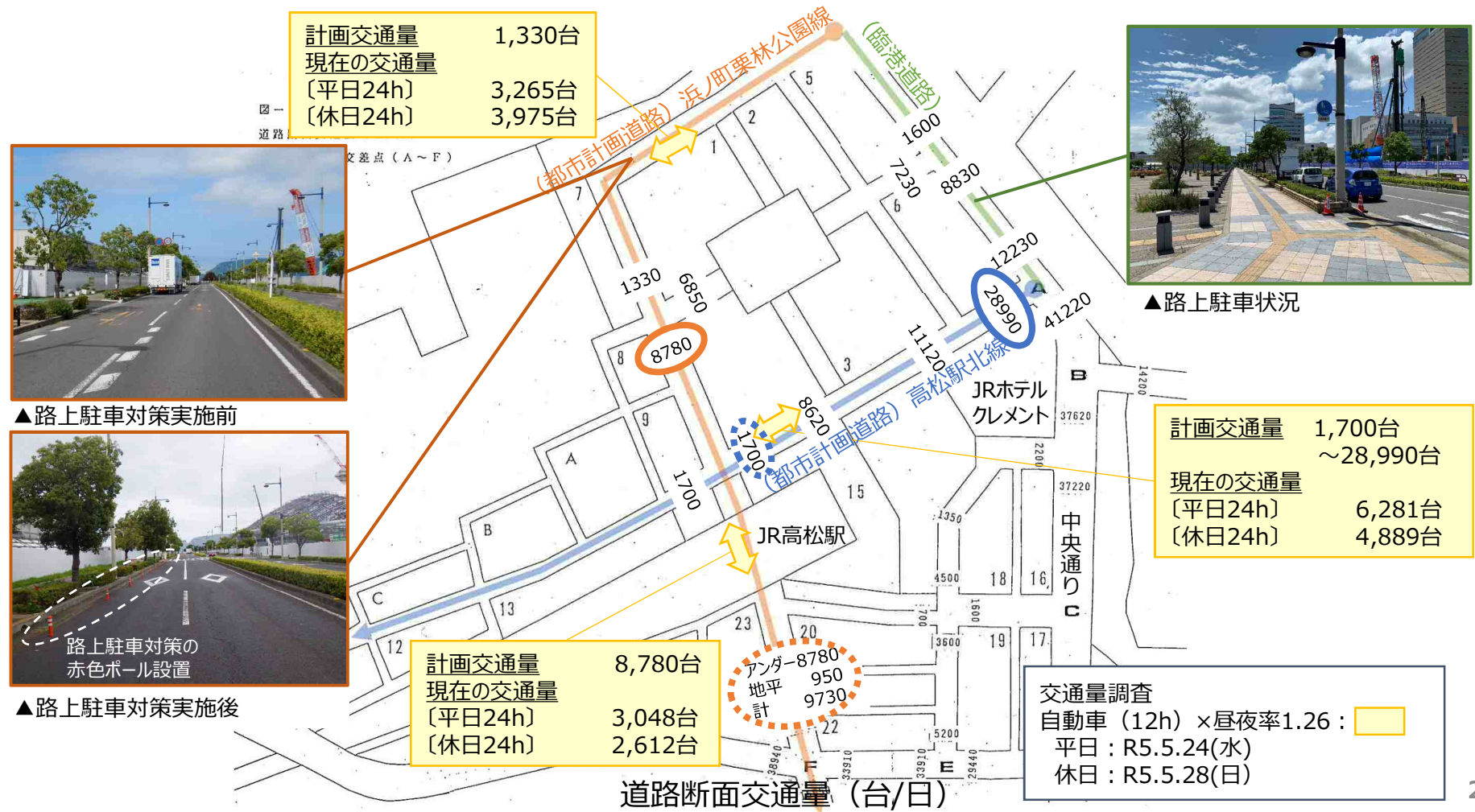
都市計画決定根拠資料（H4.12）

5 社会実験について【検討事項①】

(1) 考え方

参考資料（平成4年12月の都市計画決定）

- 高松駅北線の計画交通量（29,000台）は、JRホテルクレメント北側の断面交通量。
- 4車線の周回道路は路上駐車が多く、北側道路については住民からの苦情により市が対策を実施。



6 合意形成の進め方について【検討事項②】

○社会実験の結果等を踏まえ、プロムナード化に向けて、次のとおり合意形成を進めていく。

■合意形成の手法（案）

手 法	内 容
アンケート調査 (イベント来場者)	5月21日（日）のG7関連イベント時に来場者を対象に実施する。【実施済】
アンケート調査 (高松市民)	高松市民から無作為抽出による、アンケート調査を実施し、市民の全体的な意向を把握する。
パブリックコメント	県民から広く意見を募集し、意見に対する県の考え方を公表する。
事業者ヒアリング	交通、物流事業者を対象にヒアリングを実施し、意向を把握する。
説 明 会	近隣の住民の皆様を対象とした説明会を開催し、意見を聞く場を設ける。

■合意形成の進め方（案）

